

両派が多数派工作

水俣病患
者互助会

会員宅へ署名運動

五日の総会で補償の交渉方式をめぐり激しい対立をみせた水俣病患者家庭互助会（山本亦由会長）では六日早朝から確約書提出派とこれに反対する自主交渉派がそれぞれ会員宅をめぐり、署名運動など多数派工作を始めた。

五日の総会では確約書の提出をめぐって、両派が真っ正面から対立、激論の末、結論を出さぬまま

散会した。このあと自主交渉派は「分裂は避ける」ことを申し合わせたが、山本会長ら確約書提出派は「これ以上、話し合ってもまとまらない」とし、六日早朝から夜おとくまで患者家庭を訪問して確約書提出の説得に当たった。いっぽう、自主交渉を再開しようとする自主交渉派も署名集めに巡回した。

両派の多数派工作はどの程度のものか、明らかでないが、確約書提出派は八十九人の会員のうち大半が自派とよみ、自主交渉派は三分の二以上が確約書提出に反対して自主交渉を望んでいるといっており、このまま推移すれば、互助会は事実上分裂の状況に追い込まれるのではないかとみられている。